



糖尿病通信

—21—

糖尿病と上手にお付き合いするために

糖尿病と感染症 - その 2 -

糖尿病と関係が深い感染症はまだあります。

1. 糖尿病と皮膚の感染症

糖尿病の患者さんでは様々な皮膚の感染が見られます。足白癬（水虫）は最もよく見られる皮膚の感染症です。白癬菌というカビの一種が爪の中や指の間な



どで増殖します。爪が白く濁って厚くなる爪白癬は外用薬では治療できず、内服薬が必要です。また、魚の目やたこ、靴ずれ、やけどなど、痛みを伴うものも、糖尿病の神経障害や視力障害により気付くのが遅れてしまいます。細菌感染を伴って重症化し、



壊疽（えそ）から足の切断に至ってしまう事も稀ではありません。足の血流が悪くなる閉塞性動脈硬化症のある患者さんは特に壊疽の危険が大きく要注意です。毎日足を洗って清潔に保ち、異常がないか手で触ってよく観察しましょう。また、巻き爪のある方の爪きりや、魚の目、たこの手当て

は、病院でフットケアを受けましょう。運動をする時は足にあった靴を選ぶ事も大切です。

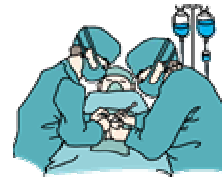
2. 糖尿病と歯周病(歯槽膿漏)

糖尿病の方は歯周病にも気をつけましょう。歯周病では、歯と歯肉の隙間の歯周ポケットのなかで細菌が繁殖し慢性の炎症がおこります。歯周病の病巣からはインスリンの働きを邪魔する物質が血中に分泌され、糖尿病のコントロールを悪化させます。また歯周病が進行すると歯を支える骨が溶けて、歯が抜け落ちてしまい、食事療法もうまくいかなくなります。効果的なブラッシングと定期的な歯科受診で歯を守りましょう。



3. 糖尿病と手術部位感染

糖尿病の患者さんが手術を受ける場合、血糖はできるだけ良いコントロールにする必要があります。術前、術中、術後のどの時期でも血糖のコントロールが良いほど、手術部位感染などの合併症は少なくなり、入院期間も短くなると報告されています。術前の血糖値の目標は空腹時で 110mg/dl 以下、食後で 180mg/dl 以下です。この目標を達成する為、手術の前後はインスリンによるコントロールを行います。糖尿病の合併症で狭心症や腎障害があると、手術はとても難しくなります。事故などで突然手術が必要になることもあります。日頃から良い血糖コントロールを目指しましょう。 内科 柳澤



糖尿病のケア



1 傷口を乾かさない工夫

ケガの傷からは傷を治すために必要な成分の含まれた浸出液がでてきます。そこにガーゼをあててしまうと、大切な浸出液が吸収されてしまい、自然治癒が遅れます。そこで水を通さないフィルム剤で常に湿らせた状態にし、傷を治りやすくします。浅い傷なら台所用のサランラップを当ててもいいでしょう。



市販されている様々なフィルム財や傷の保護剤

2 消毒液ではなく水で洗う

消毒液は細菌を殺すと同時に正常な細胞を痛めてしまいます。日本の水道水は塩素消毒の作用でほぼ無菌状態であり、新たな細菌が傷口につくことはありません。毎日一回は傷を観察しながら汚れを洗い流しましょう。十分洗えない深い傷、汚い傷の場合はできるだけ早く病院に行きましょう。

3 やけどの手当て

流水でよく冷やしましょう。水疱のなかには浸出液があり、やけどを治すために必要な成分が含まれています。小さい水疱ならつぶさずにフィルム剤で保護しましょう。大きな水泡や皮膚がはがれている場合、また、特に低温やけどの時は、見た目より傷が深く重症の事が多いので、病院を受診して下さい。

看護師 暖水